

池内信嘉 (いけのしんか) 能樂研究家。安政五年伊豫國生れ、昭和九年五月

十七日歿 (一八六一—一九三三)。號如翠。初の政治に関心を、うち能樂復興

を志して上京、雑誌『能樂』を發刊するほど斯界に盡力、(能樂中興

の祖)と稱はれる。俳人高濱虚子の次兄、同池内六けしの父。

著書『通俗政黨問答』(明治二十二年一月十八日出版、愛知・向陽

社)、『喜多流の謠』(編、大正十四年九月二十五日喜多會)、阿部

阿彌十六集意譯『能と謠の根原』(大正十五年六月二十日能樂會、春秋社發賣)、

『能樂研究』(第一・昭和二年一月刊、第二・六月刊、第三・補遺・八

月刊)、『氷洋上心樹くる能樂』(昭和四年二月刊)、『謠の謠方能

の見方』(昭和七年五月五日わんや書店)、述『父から聽いた話』(池

内六けし記、昭和九年六月二十一日序文、櫻發行所)、遺稿『能樂逸

話』(昭和十一年二月二十八日協和書院)等。

